

平成 13 年 6 月 29 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

インドネシア・南ナトゥナ海よりシンガポールへの天然ガスの供給について

インドネシア石油株式会社の子会社ナトゥナ石油株式会社は、2001 年 6 月 26 日より同社が保有するインドネシア共和国南ナトゥナ海 B 鉱区内に位置するガス田群からシンガポール向け天然ガスの供給を開始した。

本ガス供給は、同国国営石油会社プルタミナが 1999 年初に締結したガス販売契約に基づき、同国南ナトゥナ海の隣接する 3 鉱区内に存在するガス田群から生産される天然ガスを供給源とし、2001 年より 22 年間に亘り日量 3 億 2,500 万立方フィート、総量 2 兆 5,000 億立方フィート(南ナトゥナ海 B 鉱区より 1 兆立方フィート)を海底パイプラインを通じてシンガポールの電力及び化学工場向けに販売するものであり、インドネシアにとってパイプラインによる最初の国外向けのガス供給である。

本海底パイプラインは、シンガポールまで全長 656km あり、海底の敷設距離は世界最長クラスである。

南ナトゥナ海 B 鉱区は、プルタミナとマレーシア国営石油会社ペトロナスが 2001 年 3 月に締結したガス販売契約にもとづくマレーシア向け販売にも総量 1 兆 5,000 億立方フィートの天然ガスを供給することになっており、今回のシンガポール向けとあわせて総量 2 兆 5,000 億立方フィートを同鉱区より供給することとなる。

ナトゥナ石油(株)[インドネシア石油(株)の 100%子会社]は、同鉱区に 35%の参加権益を有しており、同社はガス供給事業者として、シンガポール向け及びマレーシア向けの両販売契約に対して主要な役割を果たしている。

※) 補足説明

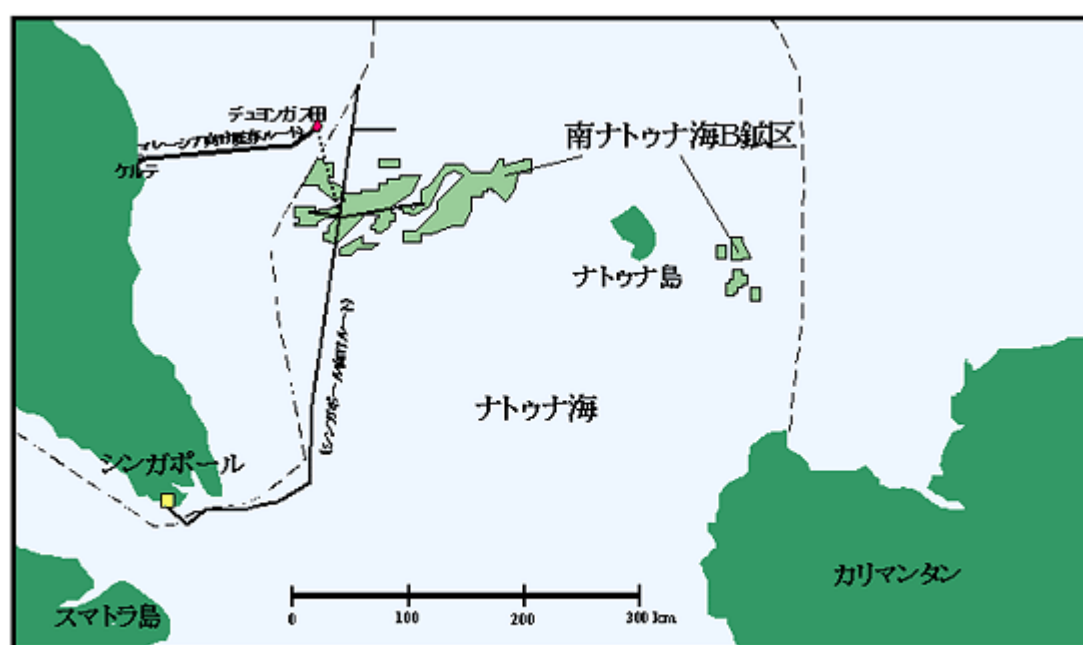
1.南ナトゥナ海 B 鉱区は、鉱区面積が 11,162km²、ジャカルタから北に約 1,200km、シンガポールから北東に約 400km の位置にある。

同鉱区からは、現在生産中のベリダ油田に加え、今後開発・生産が予定されているテンバン、ブンタル、ブラナック等のガス田群から生産されるガスがシンガポール向けに供給さ

れることとなる。

2.3 鉱区の内主要な供給源である南ナトゥナ海 B 鉱区のナトゥナ石油(株)は、シンガポールへ販売する天然ガス総量の約 15%(南ナトゥナ海 B 鉱区全体の供給割合 43.1%×ナトゥナ石油(株)の同鉱区における参加権益比率 35%)をプルタミナへ供給することになっている。

3.インドネシア石油(株)の 100%子会社であるナトゥナ石油(株)は、南ナトゥナ海 B 鉱区(オペレーター：米国コノコ社 40%、ナトゥナ石油(株)35%、米国テキサコ社 25%)に権益を保有している。現在、同鉱区では、ベリダ油田、スンビラン油田から日量約 6 万バレルの原油を生産している。



..... 南ナトゥナ海B鉱区からデュゴンガス島までのルート